

台湾、5日間の山旅

--- 台湾中央山脈・合歡連峰の記録 ---
(2007年7月の記録)

高田長一

《 行程 》

7/26 (木): 成田空港 台北(桃園空港) 台中
7/27 (金): 台中 埔里 翠峰 武嶺 合歡山主峰 合歡山東峰 合歡山莊
合歡尖山、石門山 太魯閣国家公園ビジターセンター 落鷹山莊(泊)
7/28 (土): 落鷹山莊 北合歡山 太魯閣国家公園ビジターセンター 大禹嶺(泊)
7/29 (日): 大禹嶺 八二〇林道 畢祿山 八二〇林道 大禹嶺 天祥(泊)
7/30 (月): 天祥 太魯閣溪谷 花連(泊)
7/31 (火): 花連 台北 桃園空港 成田空港

《 費用 》

航空券(燃料税、空港使用料等を含む): 2.5万円
台湾での交通費: 1.0万円
食費、宿泊費等: 1.5万円
合計: 5.0万円

《 ことの始まり 》

アメリカから帰国後、暑い日が続き、仕事もそんなに忙しくない日々が続いていました。ある日、仕事から帰宅し、メールをチェックしていると、旅行会社から格安航空券情報が入っていました。しばらくの間、海外はお預けだよな・・・と思いながら情報を眺めているところに飛び込んできたのが「台北往復14,000円」の文字。その瞬間、すでに頭の中では台湾での行程を考えていました。とりあえず、短期間で複数の3,000メートル峰に登れ、ややこしい許可が要らない合歡(フォーファン)連峰に行くことにし、細かいことは行ってから考えることにしました。それから5日後、成田発の台北行きの飛行機に乗っていました。

【7月26日】

台湾の表玄関である桃園空港に到着したのが22時過ぎ。どこからバスが出ているのか分からなく、ウロウロしているうちに23時を過ぎてしまいました。まだバスがあるかどうか心配でしたが、深夜の1時ごろまで、各地に長距離バスが出ているようでした。私は台中行きのバスに乗り込み、深夜の空港を後にしました。

【7月27日】

台中駅近くの千城というところにローカルバス発着場があります。ここで、朝1番の埔里(プーリ)行のバスを待ちました。駅の近くには屋台が出ており、角煮とスープで腹を満たしました。2000円位でした。また、近くのセブンイレブンで非常食やらミネラルウォーター等を買いました。

バスは5時半発で、終点の埔里まで約1時間です。埔里は山に囲まれた都市で、日本で例えれば、松本のような町です。そこで乗り換え、合歡山の中腹にある翠峰という集落まで行きます。翠峰からは乗り合いタクシーで、合歡山の登山口まで行けるはず・・・でした。ところが着いてみると、そんなものはどこにもなく、下の街まで降りてタクシーを雇うか、20キロメートルを歩くしかないとのこと。

途方にくれていると、心配したバスの運転手が、露天で果物を買っていた車を捕まえ、私を上まで連れてってくれるよう頼んでくれました。ちなみにバスの運転手は高砂族(山岳民族)なので、日本語を話さず。台湾では山奥に行くほど、日本語がよく通じます。

私を乗せてくれた車の主は、台湾で一番大きな霊園の会長さん一行でした。途中の展望台での茶会の後、武嶺という峠で降りてもらいました。ここは合歡山主峰(3,427メートル)の登山口です。合歡山主峰の登山道は広く、低い笹の中の道です。美ヶ原や霧ヶ峰の車山と同じような感じで、難なく山頂に着きました。天気も上々で、風が爽やかでした。しかし、なぜか主峰でありながら、北合歡山(合歡山北峰)や合歡山東峰より標高が低く山容も劣っています。

いったん、武嶺まで戻り、今度は合歡山東峰(3,421メートル)に向かいました。こちらのほうは藪あり、急登ありで、やや登山らしさを感じることができます。やがて着いた頂上は双耳峰になっており、展望は絶品です。特に奇萊主連峰と、その最高峰の奇萊主山北峰は圧巻でした。合歡山東峰からは、連峰の登山基地になっている合歡山荘に下りました。やや長い、急な下りでした。合歡山荘は本格的な山小屋で、台湾を横断する中部横貫公路の脇に建っています。山荘付近が、台湾における車道の最高地点になります。

山荘で少し休憩した後、山荘裏に聳える小さな岩山の合歡尖山(3,217メートル)に登り、そのまま縦走し、石門山(3,237メートル)に向かいました。石門山の登山道は、よく整備された気持ちのよいプロムナードで、観光客も登っています。石門山の山頂は小広く、なかなか雰囲気の良い山頂でした。山頂からは往路を引き返すのが一般的ですが、私は反対側に伸びる藪っほいふみ跡をたどり、下に見えていた車道に降りました。寝不足もあり、この時点でグロッキー状態でしたが、とぼとぼ長い車道を下り、宿泊予定の落鷹山荘に向かいました。台湾の登山ガイド本に載っていた落鷹山荘の写真は、トタン張りの倒れそうな小屋だったので、二束三文で泊まれると思っていたのですが、着いてみてびっくりです。西洋風の高級レストランを併設した、ペンション風の建物に生まれ変わっていました。値段も1泊8,000円で、びた一文、まけないとのこと。もう歩く気力も無かったので、仕方なく泊まることにしました。今回の遠征で最大の出費とともに、長い一日が終わりました。

【7月28日】

夜明けとともに、軽装で北合歡山(3,422メートル)に向かいました。朝の空気は爽快で、睡眠をたっぷりとり、高度にも慣れたため、すこぶる快調です。昨日歩いてきた車道を1時間ほど戻り、登山道に入りました。北合歡山は連峰から、やや独立した大きな峰で、この山域の最高峰です。登り甲斐もあり、雰囲気的には上越の稜線を歩いているような感じです。多分、台湾の山の中で最も人気のある山で、この日も、大きなパーティーが何組も登っていました。みな、本格的ないでたちで、軽装の私だけが浮いた感じでした。山頂では、途中から一緒に登ったパーティーと記念撮影をしました。みんな気さくで、とても親切でした。

山頂で寛いだ後、往路を戻り、登山口近くの太魯閣(タロコ)国家公園のビジターセンターに寄りました。ビジターセンターとしてはやや物足りない感じはしましたが、出来たばかりで、展示物もまだ揃っていないようでした。ただ、周辺の登山道の難易をグレード分けした解説版があり、かなり参考になりました。

ビジターセンターからは再び車道を下り、落鷹山荘に預けておいた荷物を受け取り、さらに車道を下りました。途中、車道をショートカットしながら数キロ下ると、大禹嶺という、車道の分岐にある集落に着きます。ここには食堂や民宿が数軒あり、路線バスも通っています。この日はこの奇

萊主山荘という民宿に泊まることにしました。夕飯込みで2,000円ちょっとでした。この女主人は、久本雅美に顔も髪型も、体型も、しゃべり方も、恐らく性格もそっくりで、大変楽しい宿でした。

【7月29日】

朝、暗いうちに宿を出、畢祿山（ピールーシャン：3,371メートル）に向かいました。この山はアプローチの林道が10キロメートル以上あり、1日で往復できるかどうか心配でしたが、とにかく行ってみることにしました。林道の入り口には夜が明けていないのに、すでに数台の車が停めてありました。2時間くらい林道を歩くと、前を歩いていたグループに追いつきました。40人くらいのグループで、高雄の山岳会とのこと。日本語が出来る女性がいいて、いろいろ台湾の山岳会のことを教えてくれました。結局、林道歩きは3時間くらいでしたが、この林道は完全に自然に還っており、崩落のため何ヶ所も高巻くところがあり、体力のいる難路でした。

林道は畢祿山の西側山腹の沢に出合うところで終わっています。この沢は4段150メートル位の滝になっており、その2段目の滝つぼが終点です。ここは最後の水場でもあり、ここから高度差約900メートルの直登が始まります。岩場も数箇所あり、ロープで登りました。岩場の弱点を突く高度感のある急登の後、やがて、やせた稜線に出ました。そして、小さなピークを越えると、頂上にたどり着きました。狭い頂上の先には延々と岩稜が続いており、台湾第2の高峰、雪山（3,886メートル）もはっきり見えました。

一緒に登った台湾の男性と握手をし、登頂を喜び合った後、早々に山を駆け下りました。行程を考えると、その日のバスに乗って、天祥の町に下りたかったからです。しかし、林道を早歩きで飛ばしていましたが、どうも体が重くなり、思うように足が出ません。真夏の南国は、さすがに暑く、極度の疲労感を覚え、そのうち、座り込むことが多くなりました。とにかく暑い……。途中の沢で、頭から冷たい水をかぶり、背中から水を入れました。すると、うそのように元気が出てきました。どうやら熱中症になりかかっていたようです。水分は取っていたのですが、気温が高いときは外からも冷やさないと駄目なようです。

やがて、よれよれになりながらも、奇萊主山荘の女主人が経営する食堂兼売店に着きました。そこでジュースとビールを飲んだ後、冷奴を食べ、やっと落ち着きました。これで台湾の山は終わり、あとは観光をして帰るだけです。体はくたくたでしたが、食堂のいすに腰掛け心地よい満足感に浸っていました。

しばらくして、店の前で止まったバスに乗り、天祥の町に下りました。天祥では、名前は忘れましたが、日本の有名なロックシンガーが毎年訪れると言う、カトリック教会に泊まりました。1,200円位でした。

【7月30日】

天祥は台湾随一の観光地である「太魯閣渓谷」の上流側の拠点です。台湾は中国との関係でユネスコに加盟できない状況ですが、台湾がユネスコに加盟したら、「太魯閣渓谷」は、まちがいなく世界遺産に登録されるだろうと言われています。この街から海までの数10キロメートルの間、数百メートルの高さの大理石の壁が続いています。ちなみに「太魯閣」は中国語では「タイルーガ」ですが、日本語の「タロコ」が定着しており、近年、政府もタロコを正式呼称に改めています。私は、路線バスで通過しただけでしたが、その凄さは十分、感じる事が出来ました。この日は東海岸の中心都市である花蓮に

泊まり、出店で飽食の夜を過ごしました。

【7月31日】

早朝、花蓮駅から特急電車に乗り、台北に行きました。台北では登山地図を探しましたが、ほとんどの書店には置いてありません。台湾で一番大きな書店でやっと見つけました。台湾では登山地図は書店ではなく、登山用品店で買うのが普通ようです。

その後、夕方の飛行機で成田に向かい、つかの間の台湾山行は終わりました。



埔里のバス停。ここで、翠峰行のバスに乗り換える。看板だらけの通りが台湾らしい。



武嶺から合歡山主峰(3,416メートル)を望む。簡単に山頂に立てる。



合歡山東峰(3,421メートル)の西面を望む。主峰より険しい。登山らしい雰囲気味わえる。



合歡連峰の登山基地になっている合歡山荘。近くに雪山訓練センターもある。



北合歡山(3,422メートル)の山頂。一緒に登った台湾の山岳会の人たち。



畢祿山(3,371メートル)の頂稜。両側とも切れ落ちており、かなり高度感がある。